

福岡県における森林・林業教育の現状*1

－「総合的な学習の時間」の取り組みより－

測上 悟*2 · 佐藤宣子*3 · 堺 正紘*3

測上 悟・佐藤宣子・堺 正紘：福岡県における森林・林業教育の現状 九州森林研究 56：1-3, 2003 本研究では、今年度より完全実施されている総合的な学習の時間の中での森林・林業教育の現状を明らかにするため、九州大学福岡演習林公開講座を受講した小学校教師に対しアンケート調査を行った。その結果、総合的な学習の時間の中で森林・林業について取り上げた教師は、公開講座の受講生では高い値を示した。しかし、地球温暖化と森林の関係について授業で取り上げた教師においても、木材生産やその利活用の重要性について授業に取り入れた例は少なかった。林業従事者・関係者による出前授業、校外学習については、実施すると答えた教師は少なく、その要因として相談場所の不足、時間不足があげられた。また、林業・林産業の現場と教育関係者をつなぐことが期待される行政と市民団体についての活動実態調査の結果、各組織について問題点は異なるが、どの組織においても共通して、環境保全としての木材生産と利用の重要性を授業の中で展開できていないことが解った。

キーワード：総合的な学習の時間、森林・林業教育、出前授業、校外学習、木材生産

I. はじめに

平成14年4月から小・中学校で総合的な学習の時間が完全実施された。しかし、現場の職員からは、授業展開の困難さが叫ばれている。一方、森林・林業教育の実態について考察した蒲沼(I)は、新しい学習指導要領の下、教科書の中で産業としての林業は姿を消しつつあり、林業と環境保全の関連性を理解する機会が少なくなっていることを明らかにしている。こうした中で、総合的な学習の時間において森林・林業教育の重要性が叫ばれている。特に、森林は木材生産とそれ以外の公益的機能を発揮しうる公共財である。それらを管理し保全するためには木材の利活用が必要であり、産業と環境保全の関連性を林業従事者・関係者側から教育の中でアピールすることが重要である(2)。また、その際、出前授業や校外学習(3)の有効性が指摘されているところである。

本研究は、福岡県における森林・林業教育の実態及び出前授業や校外学習への意向を小学校教員に対するアンケートで明らかにし、森林・林業関係者と教育現場を取り持つことが期待される各組織に関する考察を行った。

II. 研究方法

平成10年から14年に九州大学福岡演習林において実施された環境教育を目的とした公開講座を受講した福岡県内の小学校教員に対してアンケートを行った。公開講座の受講者であれば総合的な学習の時間で森林・林業教育を行うことに好意的であり、森林・

林業教育の課題把握に適していると考えられたからである。公開講座は、例年3日間に渡って実施され、森林の機能に関する内容から木材生産、森林管理、フィールド調査に関することまで幅広い内容であった。アンケートは、平成14年9月19日から10月15日に実施し、配布数36通、回答数23名、有効回答率は61%であった。

アンケート以外に森林・林業教育の現場と教育関係者の間を取り持つ主体として期待される福岡県福岡・八幡農林事務所林務課普及係、自然の案内人集団「豊後自然塾」に対して聞き取り調査を行った。

III. 結果と考察

1. 「総合的な学習の時間」における森林・林業教育

図-1は、総合的な学習の時間の活動内容を示したものである。64%の教師が環境について取り組み、最も多く、次いで、福祉が54%、情報と国際理解が50%と高い値を示した。

環境教育を行ったと答えた教師の中で森林・林業について取り入れたものは48%であった。平成14年6月に福岡県農林事務所が管内264校、全小学校長に対して行った森林・林業教育に関するアンケートによると、本年度の総合的な学習の時間を対象とした授業計画に森林・林業教育を取り入れたと答えた教師は7%であり、これと比較すると、公開講座の受講生は、森林・林業教育を積極的に行っているということが解る。

図-2は、森林・林業教育を実施した教師が森林のどのような機能について授業の中で取り上げたかを示したものである。水源涵養機能、温暖化防止機能が高い値を示したのに対し、木材生産

*1 Fuchigami, S., sato, N. and sakai, M.: The present conditions of forest and forestry education in Fukuoka prefecture

*2 九州大学大学院生物資源環境科学府 Grad. Sch. of Biores. and Bioenvir. Sci., Kyushu Univ., Fukuoka 812-8581

*3 九州大学大学院農学研究院 Fac. of Agric., Grad. Sch. Kyushu Univ., Fukuoka 812-8581

機能は30%に留まった。図-3は、森林・林業教育を実施した教師が、「環境保全としての林業の重要性」と「環境保全としての林産業の重要性」について授業で取り上げたかどうかについての関係性を示している。両方ともに取り上げた教師は、全体の半数以下であった。

図-4, 5は、林業従事者・関係者が授業に参加する出前授業と校外学習についての取り組みを示したものである。両方の学習スタイルにおいて、今年度に、実施もしくは実施予定と答えた教師の数は少なく、両方の学習を行った、もしくは、予定と答えた教師は一人もいなかった。

図-9は、平成14年7月に福岡県八幡農林事務所が管内158校、全小学校、第五学年担当教師に対して行ったフォレストティーチャーについての志向調査によると、出前授業について、「取り入れたい」「打ち合わせしたい」と積極的な要請が83%に上った。図-4の結果を踏まえると、授業を行う上で何らかの阻害要因が存在するのではないかと考えられた。

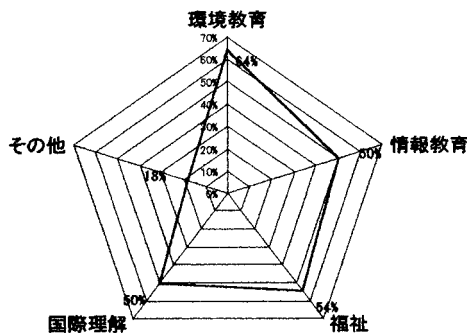
図-6, 7は、出前授業、校外学習を行わなかった理由を示したものである。相談場所の問題、時間の不足の問題が高い値を示した。

図-8は、今後の展望として、出前授業、校外学習に何を求めるかということ森林・林業教育を行わなかったと答えた教師に解答してもらったものである。森林の役割と答えた教師は65%と高い値を示したが、環境保全としての木材生産と利用の重要性についての学習を望んだ教師は15%に過ぎなかった。

2. 行政と市民団体の取り組み

福岡県福岡農林事務所は、平成11年以降、学校からの依頼に対し、林業普及員を派遣し、出前授業を進めている。しかし、総合的な学習の時間において学校からの授業要請・関心はかなり低いと調査の中で認識しており、学校へのアプローチは、依頼者からの要請を待つという姿勢をとっている。

一方、福岡県八幡農林事務所においては、前述したアンケート結果から、学校からの授業要請は、今後増加すると予想しており、学校へのアプローチにおいても、個別的な打ち合わせや意見交換会を行っている。しかし、そのような認識をもっているにも関わらず、他団体への指導や委託は行っておらず、教師からの要請の増加やより多様化する要請に備えたネットワーク作りには至っていない。



注：複数回答

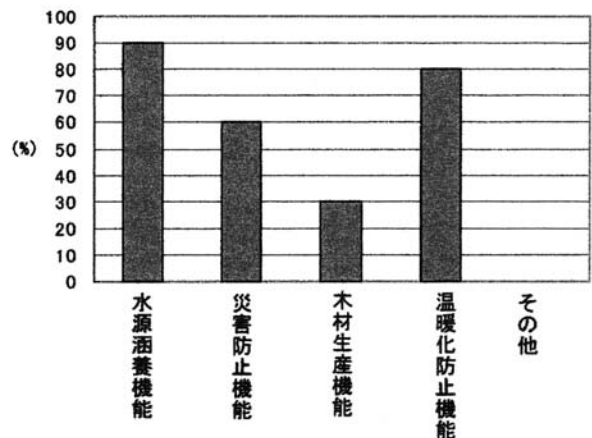
図-1. 総合的な学習の時間の実施状況

市民団体の一つである豊後自然塾は、平成14年4月に設立された。設立間もない市民団体ではあるが、樹木医・森林インストラクター・鳥類・動物・昆虫・レクリエーション・教育等あらゆる専門家を揃え、教師のあらゆる要望にこたえることのできるシステムをつくり上げている。今後は、総合的な学習の時間への積極的な関わりを展開していくの方針を掲げ、教育委員会、市役所関係機関へ宣伝やパンフレットの送付を行うなど積極的な活動を行っている。

また、事務局は、授業の中で環境保全としての木材生産と利用の重要性を訴えることは、大切であると認識している。しかし、現段階では、出前授業において、自然体験を通じた公益的機能の理解や自然観察などといった学習に留まっている。その理由として、出前授業の時間が短いことや教師自身の知識不足が指摘された。

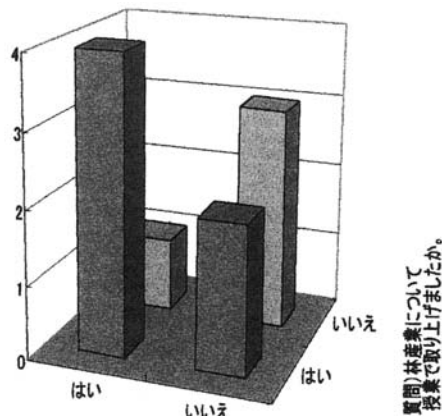
IV. 終わりに

公開講座を受講した多くの教師は、総合的な学習の時間に、森林・林業教育を展開し、森林の役割、森林と生物・植物などといった森林の地球環境に果たす役割を取り上げていることが解った。また、八幡農林事務所のアンケートから、今後、出前授業、校外学習に対する要請は高くなっていくと考えることができる。しかし、校外学習や出前授業が環境保全としての木材生産と利用の重要性を訴えるという目的を達成できない可能性が示唆された。今後、森林・林業教育に関係する各種主体は、1) 教師に対する環境保全としての木材生産と利用の重要性の積極的なアピール、2) 教師の多彩なニーズに対応する多彩なプログラムの作成、3) 教師と指導者との橋渡し役としての役割を發揮することが求められる。そのためには何が必要か、行政と市民団体それぞれの役割を検証することが必要であると考えられる。また、森林組合や林家グループなど山村での受入主体の課題については、今後の課題としたい。



注：複数回答

図-2. 森林の機能についての授業展開



質問) 林業について授業で取り上げましたか。

(森林・林業教育を取り入れた教師対象)
図-3. 林業, 林産業についての授業展開

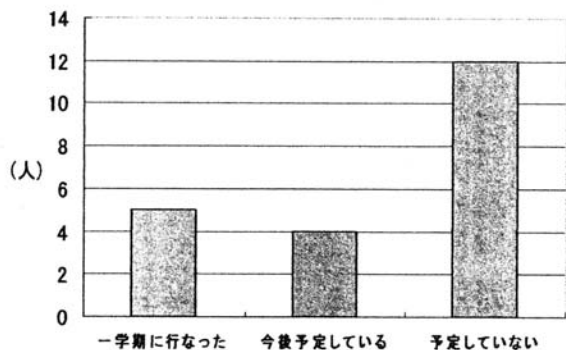


図-4. 出前授業の実施状況

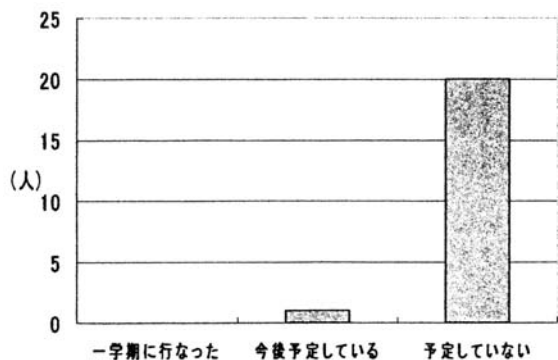
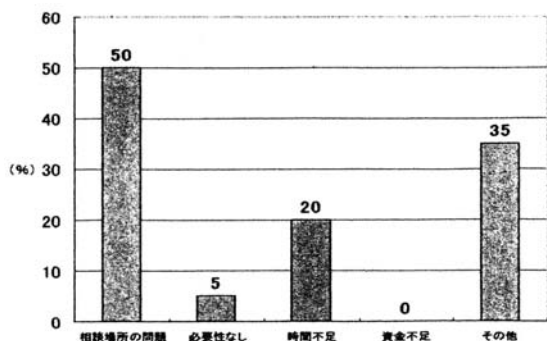
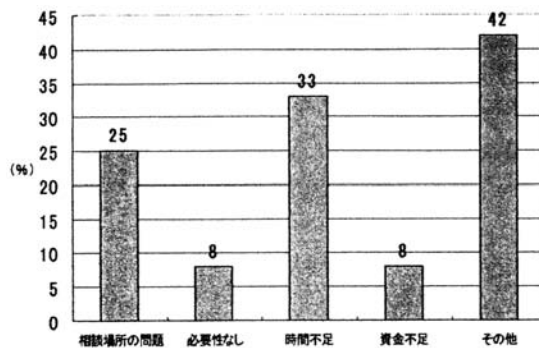


図-5. 校外学習の実施状況



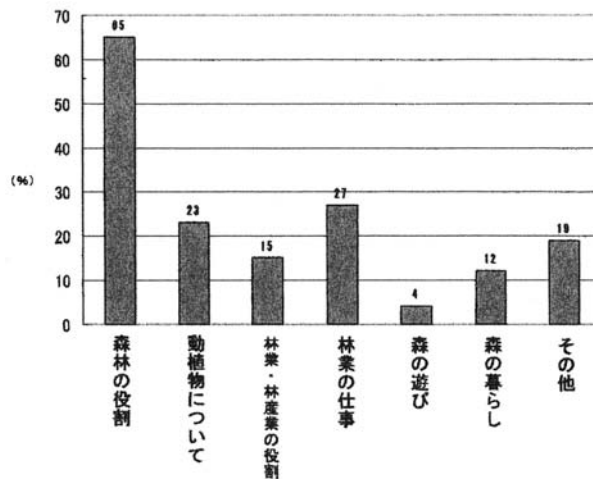
注: 複数回答

図-6. 出前授業に対する阻害要因



注: 複数回答

図-7. 校外学習に対する阻害要因



注: 複数回答

図-8. 出前授業・校外学習に対する要請

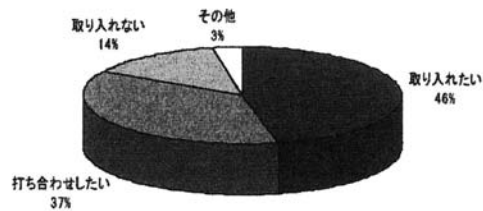


図-9. 出前授業に対する意識調査

出典: 福岡県八幡農林事務所, フォレストティーチャーについての志向調査, 2001.

引用文献

- (1) 蒲沼満 (2002) 林業技術 726: 2-6.
- (2) 山本信次ほか (1992) 日林論 103: 19-20.
- (3) 筒井迪夫 (1992) 日林論 103: 21-22.

(2002年12月24日 受理)